

2016 年 9 月 30 日

博報財団 第 10 回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名	FREDERICK Sarah Anne (フレデリック セーラ アン)
在住国名	アメリカ
所属・役職	ボストン大学 准教授
招聘回(招聘研究期間)	第 10 回 (2016 年 3 月 1 日～ 2016 年 8 月 31 日)
受入機関	立命館大学
招聘研究テーマ	夏目漱石「京に着ける夕」地図：京都文学とデジタル・ヒューマニティーズ
研究目的	<ul style="list-style-type: none"> 夏目漱石が明治 25 年と明治 40 年に京都へ旅した時の場所をデータベースにする(文学作品に出てくる場所との関連も含めて) ARC GIS と World Map のソフト・ツールを使ってインターネットで見える地図を作る 他の利用者がその時代の地図を見て、操作できるようにする 地図を作る過程から発見したことをまとめる 写真やリンク情報を入れ込む方法を試みる
研究概要：	<p>本プロジェクトは、文学と空間の関係性という難題に、文学テキストの精読に加え、可視化とデジタル・ヒューマニティーズという新しい手法を使って取り組むものである。具体的なプロジェクトとしては、夏目漱石による京都の様々な場所に関する記述、特に『京に着ける夕』における記述を和文・英文の両方で、明治 25 年から 40 年当時の京都のデジタル地図上にマッピングし、研究・分析するものである。構築されたヴァーチャルな地図を使うことにより、ユーザーは、京都の主要な文化遺産や名所を知ることが出来る。半年間の研究期間中、夏目漱石が明治 25 年と 40 年に京都で訪ねた諸所をデータベースに記入し、GIS を使って、幾つかの地図のフォーマットに落とすことができた。当該の場所と当時の詳細な京都地図(大正・昭和初期)を重ねて見えるようにし、それらの場所を確認しながら、都市空間の変化も視覚的に理解できるようにする。歴史的な写真や、現在の写真を収集し、また撮影し、一緒に表示することも試みる。その地図と関連する画像と一緒に表示すること、アプリなどの携帯フォーマットにすることが今後の課題となる。</p>
展望：	<p>将来、漱石以外の作家の京都に関する文学、たとえば川端康成の『古都』なども取り入れる計画である。著作権の関係で現代文学に関してはテキストを付けるのは難しいが、小説中の場所を地図に落とすことは可能である。源氏物語の英訳を使い、学部生向けと留学生向けのものを作成することも可能である。古典の研究者と協力し、本研究期間に学んだのを利用し、アプリ型のソフトを作ることも挑戦したい。教育的な観点で言えば、来年教える予定になっている東京に関する文学のゼミでは、今期、試用したツールの中から使いやすいのを学生に紹介し、東京の文学に関する地図も作ってもらうプロジェクトをするつもりである。今年度、同僚の授業で、学部生が森鷗外の『雁』に関する Google 地図と映像の面白いものを作成した。これをモデルとして、様々な作品の地図を発表していきたい。帰国後も、日本文学に関するデジタル・ヒューマニティーズの研究を深めていき、学会でも積極的に発表していく。特に、デジタル・ヒューマニティーズの世界的な大会である、来年の Digital Humanities 2017 では、是非、発表したいと思っている。</p>